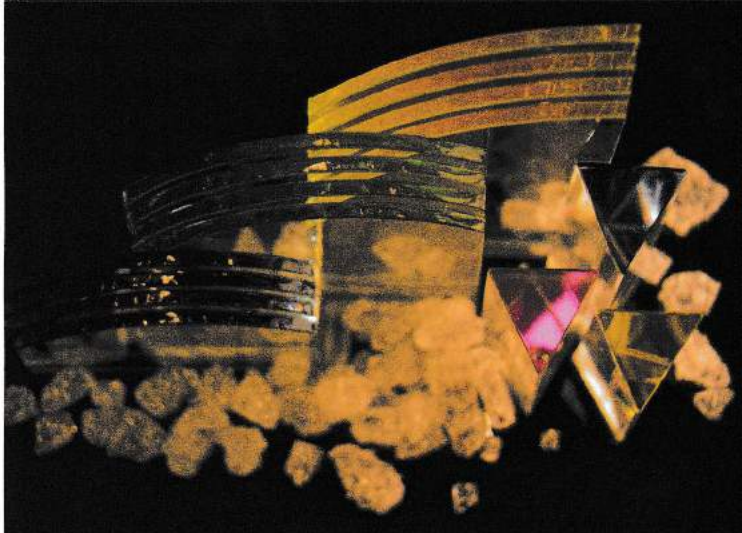




「舞」



「太素」



「光の丘」



あ

NO.34 2001.3

aqca

社団法人日本建築美術工芸協会

アピアランス



aaca会員
染織タビストリー作家
ASAKURA MITSUKO
朝倉 美津子
京都市西京区大枝西新林町6-10-18
TEL 075-331-2763

「舞」
(東京赤坂)日枝神社 社務所エントランスロビー
1500×1600×50mm

染色作家を父に持ち、織り作家として出発し、早や30年が経った。日本の神社で初めて、現代タビストリーを起用するとのことで光栄です。祈禱時のかわいい巫女さんの様子が触発されて、絹糸を染めて織った。



aaca会員
石彫家/(有)小野寺優元都市芸術研究所
ONODERA YUGUEN
小野寺 優元
埼玉県東松山市白山台15-19
TEL 0493-35-4506

「太素」
ハウスクエア横浜
50×60×70cm

茫洋たる空間の中に浮遊しているそれぞれの世界は、時間的にも、空間的にも連続し、これら無数の世界の連続が新しい宇宙を生む。この宇宙の根源に凝り固った元気から、陰陽の二気が生じ、万物を生成した。



aaca会員
ガラス造形
NAKAMURA HIROKO
中村 弘子
東京都国分寺市西町2-17-1
TEL 042-577-1378

「光の丘」
15cm×40×20

氷のように冷たく透るガラスは、七色の色彩を放つとき、温かい水のような塊に変わります。吸い込まれるような色彩を内に持つガラスの作品を作りたいと思っています。



aaca会員
彫刻家
MIZUSHIMA MASAHIRO
水島 正博
福井県丹生郡織田町織田92-33
TEL 0778-36-1440

「恐竜モニュメントのカツヤマリュウ(8名)/アロサウルス(群像彫)
フクリリュウ(8名)/イグアノドン(群像彫)」
福井県勝山市 | 48×93×15
36×74×13

夏の2ヶ月間の恐竜エキスポにあわせて市役所より指示を頂いて木彫からブロンズにしました。全部で8種を木彫、恐竜のすごさがノミ使いで表現できるかと思って一木でした。

CONTENTS

第10回aaca賞	1
時代の華一輪	5
aacaトーク	6
サロンド・トーク仙台AACA'S	8
ITアンケート調査報告	9

■表紙デザイン

高部 多恵子

表紙の作品を募集しています。
事務局までお問い合わせください。
尚表紙のレイアウトは、広報委員会で行います
のでご了承下さい。

発行：日本建築美術工芸協会
Phone 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20
建築会館 6F

振替：00110-2-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会 広報委員会

広報担当理事 柳澤孝彦

委員長 玉見 満

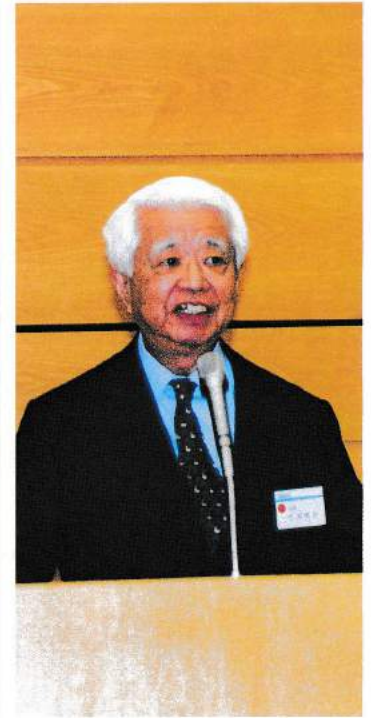
副委員長 高部多恵子

北村孝昭、石田真人、山崎輝子

浅野由紀夫、長谷川亨、瀬川秀之、佐田興三

事務局 長 伊藤留雄

制作協力：中栄印刷工業株式会社



審査委員長 内井 昭蔵
 審査委員 會田 雄亮
 // 栄久庵憲司
 // 近江 栄
 // 澄川 喜一
 ゲスト審査員 松本 哲夫

いた応募パネルで入賞候補案を選びましたが、その作品は以下の通りであります。

対象件名：名古屋市栄地下街クリスタル
 広場オブジェ“光彩”
 作 者：安河内敦子

対象件名：大阪ガーデンシティ
 作 者：ケネス・スネルソン
 アントニー・ゴームリー

対象件名：川崎市岡本太郎美術館
 作 者：(株)久米設計

対象件名：MAYUMIYAの工房
 作 者：久保清一+香川真二+
 森田真由美

対象件名：鳥取県立フラワーパーク
 作 者：アーキテクトファイブ

対象件名：「潜在する音の海-Wave Wave
 Wave,Umi-Tsukushi」
 他一連の作品
 作 者：庄野泰子

対象件名：明和町(群馬県)町制施行記念
 モニュメント
 作 者：日高單也、山本 誠、小野行雄

これら候補作品について現地審査を行った後、審査委員会で議論の結果、本年度はAACCA賞を

庄野泰子氏の一連のサウンドスケープデザインに対して贈ることを決定しました。なお、庄野泰子氏は「潜在する音の海-Wave Wave Wave,Umi-Tsukushi」についてすぐれた業績を認められましたが、この他にラフレさいたま「ウィンド・ノーテーション」、種足ふれあいの森 サウンド・モニュメント、ビッグハート出雲 サウンド・モニュメント、国営越後丘陵公園「冒険の丘」フォーリー サウンド・オブジェ、棚倉町文化センター ウォータースクリーン、風の丘斎斎場「風のベンチ」サウンドインスタレーションが応募されていました。

審査委員会ではこれらを含め、一連のサウンドスケープデザインを対象として賞を贈ることにいたしました。

AACA特別賞は本年は次の二点を選定いたしました。

○アーキテクトファイブの鳥取県立フラワーパーク

○日高單也氏、山本 誠氏、小野行雄氏による明和町(群馬県)町制施行記念モニュメント

(審査委員長 内井昭蔵)

審査総評

◇審査経過

(社)日本建築美術工芸協会(a.a.c.a)では、毎年公募し本会の設立の主旨に合致した、すぐれた芸術的環境をつくった作品を表彰してきました。

本年は第10回となります。応募総数は20点でありました。内容は建築、彫刻、アート環境のコーディネーション、音環境など、多岐に亘り、いずれも高い水準のすぐれた作品でありました。

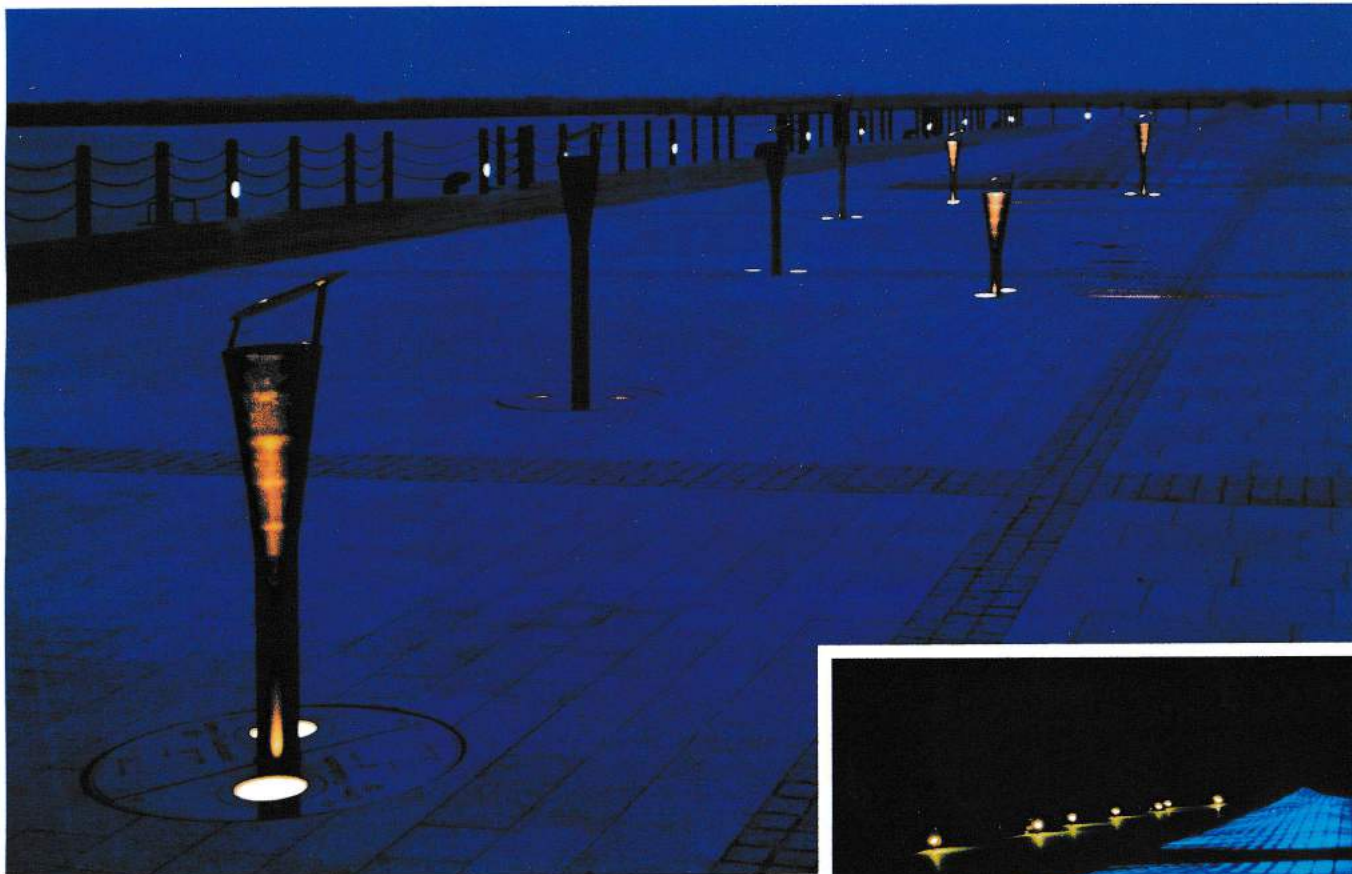
選考に当たっては、作品が独創的であり、建築や彫刻など、アートが自然環境、都市環境の中で生き、環境がアートによって生かされるといった本会の主旨に合致するかどうかという点に絞り、慎重に議論を重ね、現地審査を経て確定いたしました。

例年の如く、第一次は提出していただ

AACA賞

「潜在する音の海—Wave Wave Wave, Umi—Tsukushi」他一連の作品

作者：庄野 泰子



Umi-Tsukushi

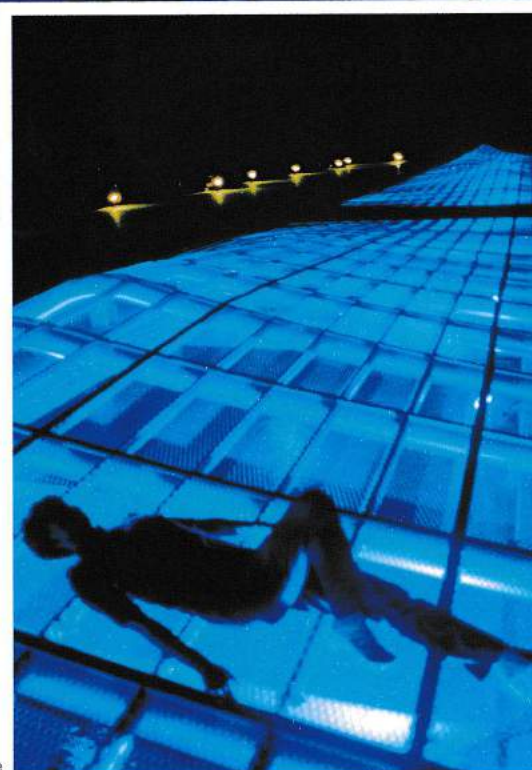
審査講評

殺風景な工場地帯を抜けて小名浜港に到着、この作品の前に立った時、どう触れ合ったら良いのか多少の戸惑いを隠せなかった。説明者を待つ間、Umi-Tsukushiに耳を寄せ、床のWaveをのぞいてみる。

金属パイプは長さによって音を拾う位置が変わり、チョロチョロ、ポコポコ、思いがけない音が伝わって来る。まるで聴診器でお腹の音を聞いている様な錯覚すらおぼえる。そうか、作者は目立たない水の声と、我々に会話をさせようとしているのかとようやく納得する。それではWaveは、と、ネット上に寝てみる。背中越しに76米の距離を移動する波の音は真近にせまり、波の声と青空が一つになった。やはり、この作品は夜暗くなって本領を発揮するものだろう。

この作家は他に一連の作品を応募している。壁に沢山パイプオルガンのパイプを取り付け、拾った風に音を発生させた

り、素焼きの容器から金属板に落ちる水滴の音を拾い、又、長いパイプで風を受け、葬祭場の一画で不思議な音を聞かせる等、音にこだわる様々な実験を試みている。しかも、無理に装置で音を造成し、人間に押しつけるのではなく、一寸気の付かない音をそのまま人に伝えようとす



潜在する音の海
-wave wave wave

る作家の姿勢は共感を呼ぶものであった。だから、風や波の無い時は音は聞こえてこない。

音は環境と造形の触れ合いのテーマでは比較的新しい分野であろう。その意味でも先駆的業績として大いに評価すべきものと意見の一致をみた。(會田雄亮)

■ACA賞特別賞：「明和町（群馬県）町制施行記念モニュメント」

作者：日高 單也、山本 誠、小野 行雄

審査講評

この作品には宇宙的ロマンがある。銀河を挟んで彗星と織姫が年に一回逢う瀬を楽しむように、10月1日に太陽の影が町のシンボルと合体するというドラマを演じている。つまり太陽と町民の合体である。

太陽によって映し出されたモニュメントの影が一年を待って、一瞬明和町のシンボルである「日」「月」の紋章と符合するのである。

太陽と町の合体の壮大さは、町民同志の連帯感をいやがうえにも高め、そのアイデアは抜群である。

時間、空間に太陽を組み込み、一年の時間と共に町のシンボルとしての代表機能、意味機能、表徴機能を充分満足させた技術も可とすべきものがある。又モニュメントの造形は材料選択、比例感覚に優れ、かつ設置環境に生命を吹き込んだ効果は云うまでもない。

メッセージのまことにクリアな作品である。
(栄久庵憲司)



明和町制施行記念モニュメント

■ACA賞特別賞：「鳥取県立フラワーパーク」

作者：アーキテクトファイブ



鳥取県立フラワーパーク

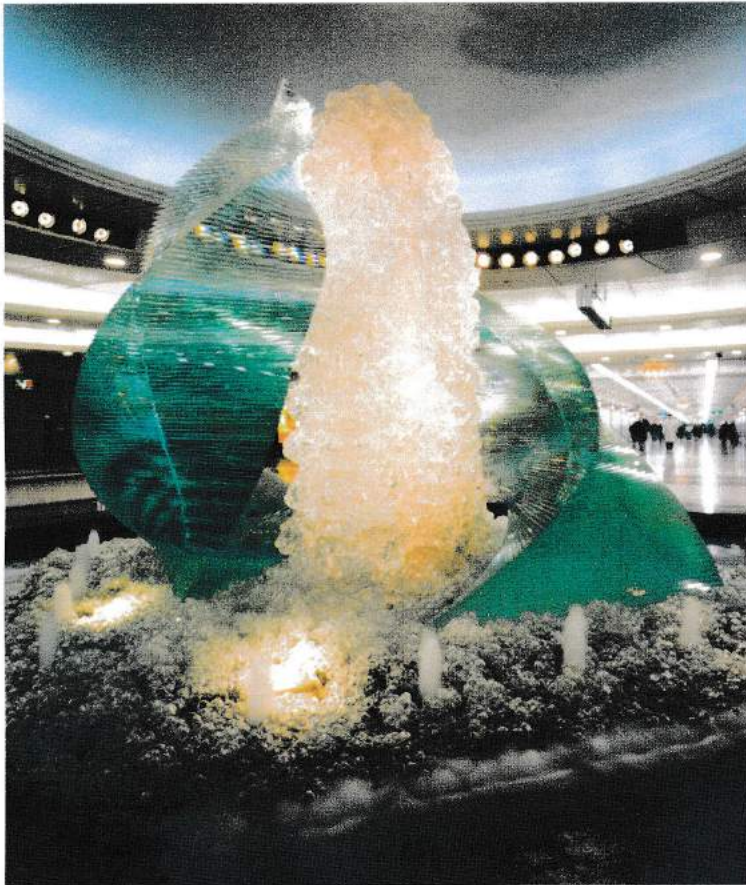
審査講評

自然豊かな鳥取県西伯郡につくられた県立フラワーパークの展望回遊施設である。起伏のある地形にある樹木やフラワー園をさまざまな視点で観察し、自然とふれあうために一定のレベルを保ち、回遊する円形の通路を高度な建築技術をもって形成したものである。中央には大き

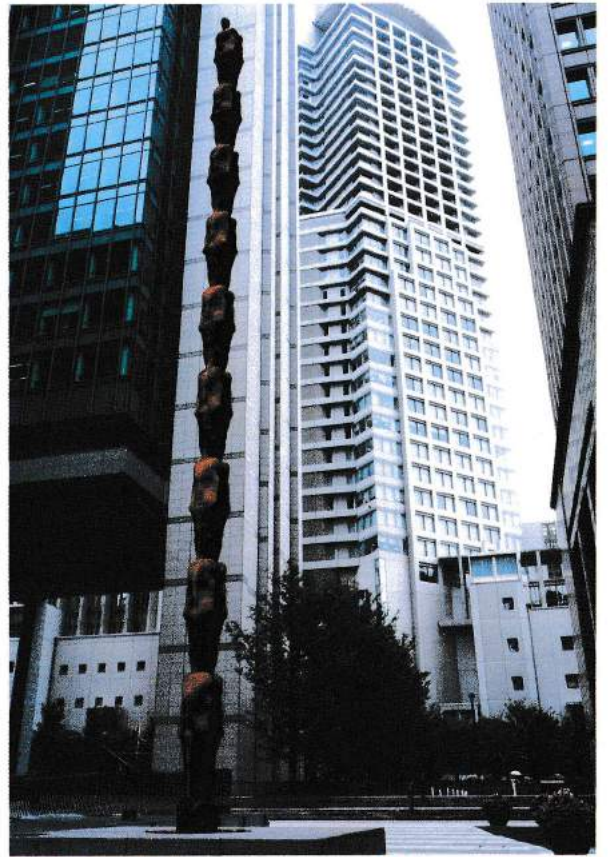
な透明性の高いドームを配置している。自然の中に幾何学的造形をもち込むことで変化に富んだ自然を協調することができ、又、自然によってこの建築的空間が生かされている。この中空に浮かんだ施設は地形、植生をいためることなく、しかもシークエンシャルなシーンが次々に現れるといった意外性も感じられる。当然、バリアフリーの思想も生かされ、公



共施設としてもすぐれた設計となっている。しかし、委員の中にはあまりに幾何学的であり、自然にふれ合うより建築造形が勝ちすぎているのでは、という意見が出ました。多くの専門家、エンジニアとのすぐれたコラボレーションも評価されました。
(近江 栄)

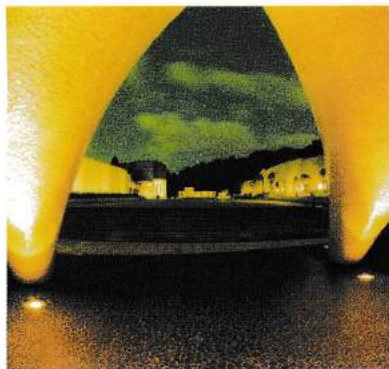


対象件名：名古屋市栄地下街クリスタル広場オブジェ「光彩」
作 者：安河内敦子

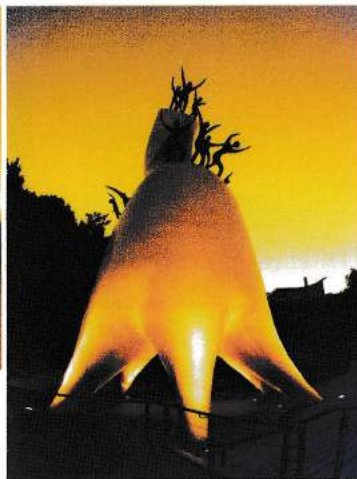


対象件名：大阪ガーデンシティ
作 者：ケネス・スネルソン アントニー・ゴームリー

© photo by OSAMU MURAI



対象件名：川崎市岡本太郎美術館
作 者：(株)久米設計



対象件名：MAYUMIYAの工房
作 者：久保清一 + 香川真二 + 森田真由美

「潜在する音の海—Wave Wave Wave, Umi—Tsukushi」

抜ける様な冬の青空を久しぶりで見上げた。

小名浜港2号埠頭の先端部にある種々のうねりやふくらみを持つ巨大な造形物。その下は海。身体をステンレスの網の上に横たえていると、背の下から波の音がつぎつぎとやってきて、まるで海の一部になった様な浮遊感に襲われる。海の、波の音がこの様な形で感じることを体験するのは初めてのことである。自然の音、風や、波や、水滴など音を使って芸術的環境へ造形する作家がいることを確認ができた。

「明和町(群馬県)町制施行記念モニュメント」

毎年10月1日正午の日影を紋章に見立てる計算すくのループ形の造形物も、又、自然との対話から生まれた作品といえよう。

「鳥取県立フラワーパーク」

この作品は前者と異なる視点で、自然の生態を極めてクールな水平構築物を幾何学的形態で構成し、多様なシークエンスを作りだす。木々を梢から見おろし、枝の間を抜け、地上で花を、地下で根を見る。

魅力的な環境をつくり上げている。

(ゲスト審査委員 松本哲夫)



aaca広報委員
SATA KOUZOU
佐田 興三
千葉県船橋市夏見4-12-28
TEL 047-422-1071

「いろは」

色は匂へど散りぬるを、我がよ誰れそ常ならむ……ん。弘法大師空海が考案したとも伝えられる「いろは」四十八文字の中に、時の流れを感じて自分の作品のテーマとしている。その冒頭にもある「色」というものゝ性質には、よく知られているが明暗や彩度の他に、艶、波さ、輝き、重さ、肌合等々の様々な性質が含まれている。それらが微妙に調和することによって様々な分野の作品はその雰囲気が生れ作品が映える。日本には日本の風土の中で、その調和がとれ、ヨーロッパはヨーロッパの、アフリカはアフリカの等々、その土地によってそれぞれの色の性質の調和があり、もしその中に、どんなに魅力が有っても異った性質の色をもってゆくと、素晴らしい輝きにはならな

い。日本の四季は美しい調和の中に春夏秋冬が流れてゆく。無論ヨーロッパや他の国々でも、その土地の季節の流れが、その土地特有の調和を見せながら移り変わってゆく。アフリカには照りつける太陽の下で鮮やかな色彩と大地の重さがあるいろの色を生み出し、ヨーロッパにはヨーロッパの生み出す色があり、長い年月をかけて、魅力有る油絵という絵具が生みだされた。日本に日本画(明治以前の)が生れ育ったのも風土から生みだされた色彩である。古くから日本は中国や韓国、その他の国々から新しい異質の情報(色)を得て、それを消化吸収して新たな日本の魅力として来た。これまでは異質な色を長い時をかけて少しずつ日本の色へと変化させるだけの時の流れがあった。その時の流れの中で色は日本の色として成熟してゆき新たな輝きを放った。今、情

報は多く、それを醸す時間は極端に短い。現在は色の調和をいかに生みだしてゆくか、大変難しい課題である。人は形に関しては、かなり明確に掴むことが可能でその良し悪しを判断することが容易いが、色に関しては非常に難しく漠然と何かいい、何かよくない、位にしか認識していない。洋の東西の名作として伝えられる作品には、形の良さは無論、色彩の良さが裏打ちされている事を知り重要に感じることは少い。今自分が制作活動の中で追求している事は時の流れ、心の流れをより自由に形と色彩によって表現出来たらと思っている。日本の三河島と言う土地に生れ、その風土の中で育った自分が、どの様な「形」や「色彩」を生み出す素材になっているのか、現在は自分なりの油絵と、和紙と光による立体作品に取り組んでいる。



「いろは」98年 油絵 10号変



(株) 集研設計展示作品
(和紙と光の立体作品)



テレコムセンター展示作品
(和紙と光の立体作品)



(株)秋山環境デザイン研究所 代表取締役
AKIYAMA HIROSHI
秋山 裕史
東京都渋谷区東2-27-4エビス東ハイツ第-603号
TEL 03-3486-6566

コンクリートの色彩景観

風景画に向かない 白すぎるコンクリート色

自然豊かな河川風景を絵に描こうとする際に、風景の中にコンクリートによる部分があるとその部分が周囲の自然の緑に対して白く浮いてしまい絵としての色彩的バランスを欠いてしまう事が多い。コンクリートでつくられた形状が自然を背景に考慮されたデザインであればよいが、構造機能だけが優先されるケースが多く、周囲との景観的配慮に欠け、風景としての連続性、バランスを欠いてしまう。このような色相、明度、形状という点において周囲との自然景観と折り合わないため、その結果コンクリートは景観的に悪いという烙印を押されてしまうケースがある。

コンクリートも 使い次第

村野藤吾設計による広島の世界平和記念堂の教会入口部の壁面や框部のコンクリートの仕上げはトラバーチンや石を模したものであるがいやみなく受け入れられる。また、写真-2はアメリカのロチェスター市における住宅街の一般的なコンクリート舗装の歩道であるが、周囲の芝生との図と地の関係が美しく景観デザインの良い事例といえる。



写真2 アメリカ/ロチェスター市の住宅街歩道



写真2 アメリカ/ロチェスター市の住宅街歩道

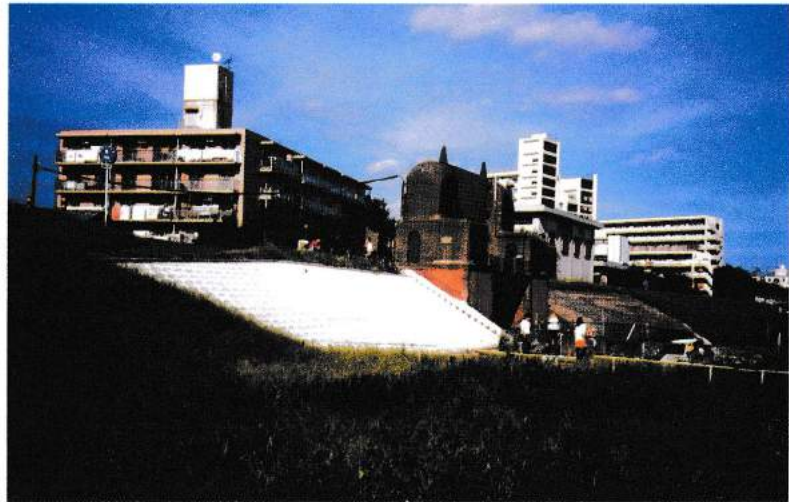


写真1 多摩川コンクリートブロックによる緩斜面

写真-3はドイツのフランクフルトの商業地域におけるコンクリート平板3種類の組み合わせただけの舗装であるが、道路景観としては落ち着いた雰囲気があり安価なイメージはない。これらからいえることは全体景観のなかにおけるコンクリートの素材の扱い方であり、またディテールに対する審美眼の確かさである。

前述のように土木景観においてコンクリートは竣工時は明度が高く周囲の環境から浮いてしまうことが多く、それらを解決するための一つとして周囲の景観とマッチするコンクリート間知ブロックを開発した。その手本は全国の石垣の色彩にもとめ全国各地の色彩にとけ込む用に色合いを調整し6系統の色彩のブロックを

つくった。そしてこのブロックは工業製品でありながら環境条件の多様性に対応できるカラーバリエーションとデリケートさが良いという評価で、1998年度の公共空間部門のグッドデザイン中小業庁長官特別賞を頂いた。

環境の中にどのように位置付けられるかという一歩下がった広がりある視点をいかに持つかが課題といえる。



色彩開発した手前のブロックと後部のコンクリート打ちの色合いの相違



写真3 ドイツ/フランクフルト商店街歩道



oaca会員
インテリア アーキテクト
(株)イリア・KAJIM彫刻コンクール幹事長
TORAYA TADASHI
厩屋 正
東京都港区赤坂6-5-13
TEL 03-5561-2506

アートが 空間をひらく

私がインテリアデザインの仕事を始めて間もない頃、あるビルの屋内空間に彫刻が置かれており、特に著名な作家のものではなかったが、その彫刻がその場の空間を支配していることにある種の驚きをおぼえた。それ以後内部空間の設計を考える際、アートワークの在り方を合わせて考えることが常となった。

1989年、鹿島建設が創業150年を迎え、当時我国でインテリジェントビル第1号で、アトリウムを持った鹿島KIビルー小生の設計による一が竣工し、記念事業として、彫刻コンクールが行われ、アトリウムで展示が行われた。私は幹事として、今迄以上に彫刻との関わりを強く持つこととなった。第1回目に応募作品数、質的な面等において大好評であった為、審査員の先生方から、国内唯一の屋内彫刻コンクールとして継続の要望

が強く、以後ビエンナーレ型式で行うこととなり、今年で7回目を迎える次第です。毎回応募数は約300点、その内約20点が海外からです。40代から50代の中堅作家を中心に、又新人の登龍門として、又、素材の面で屋外では使えないものでの作品もあり、中広いコンクールとして認知されております。このコンクールをよりレベルの高いものとするべく、毎回のように事前に審査員の先生達と懇談会を持ち、又審査当日も意見交換をしコンクールのテーマである「彫刻と建築空間の調和」について議論が重ねられてきました。屋外彫刻展と違い彫刻の置れる空間との関係をどう意識するか？永遠のテーマのようです。単なる置物でない、むしろ空間を発生させる作品が求められています。建築には敷地という場が最初からある訳ですが…。彫刻家は建築空間を意識しているのでしょうか？建築家は彫刻が置れることを考えて設計している

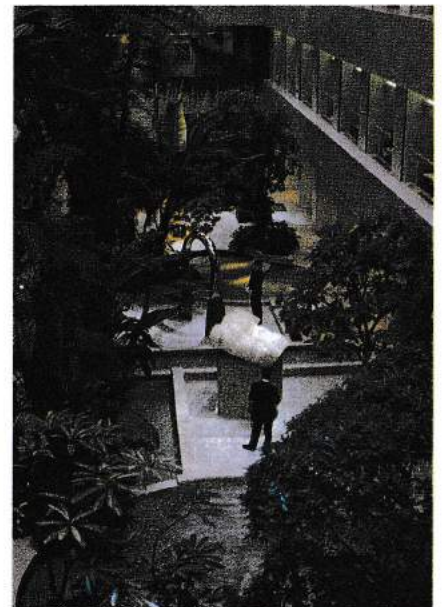
のだろうか？毎度出る意見です。

私はここ数年間に、いくつかの彫刻の設置のプロデュースを経験し、又現在新築ビルの竣工と同時に彫刻が設置されるコンクールのプロデュースを行っております。カジマのコンクールは勿論、今まで国内外で見てきた数々の経験が私を動かしております。コペンハーゲン郊外の海を背景にしたヘンリームーアの作品、その場を振り向けば、三木富雄の耳、又イタリアの街中の数々、欧米の建築空間での彫刻等々。

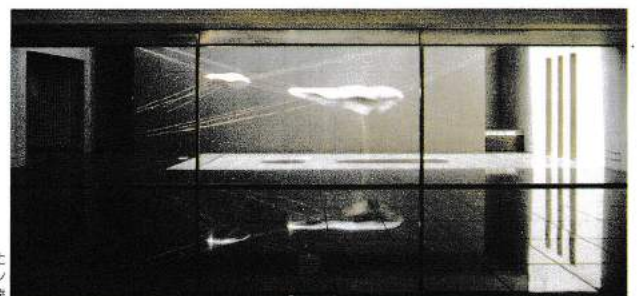
昨年の夏、イタリアを旅した折、フィレンツェの街中で行われた安田侃氏の彫刻展を見る機会を得ました。ルネッサンスの時代以後フィレンツェの街中ーシニョーリア広場を中心に8ヶ処でーこのような展覧会は初めてであり、ましてや現代アートを！安田侃氏の彫刻とフィレンツェの街が語り合っている空間を感じることが出来、強い感動をおぼえました。



ウフツィ美術館前
安田 侃氏の彫刻



フィレンツェ シニョーリア広場 安田 侃氏の彫刻



元特殊車を製作していた
会社のランカーガーデン
作：関 玄達

サロン・ド・トーク仙台 AACAS



aaca会員
建築家吉田イサムとアーキ・ハイ
YOSHIDA ISAMU
吉田 イサム
仙台市青葉区中山6-1-13
TEL 022-279-7051

“サロン・ド・トーク”は楽しい

とても良かったわ!! 後のサロンパーティでのお話で益々尊敬する様になったわ!!とご婦人方の多い“サロン・ド・トーク”の終わった後、出口での挨拶の言葉である。主催者、会員担当者一同帰り際のこの言葉を聞くことが次回の運営への反省と意欲の元になる、早速今日のスピーカー、コメンテーターに伝える。次回には私達は聴衆になって来ましょう!!”と云ってくれる。次のテーマは既に予告してある、抱負と情熱が高まって行く一瞬である。

サロン・ド・トーク仙台、待ちに待ったこの集りは、昨年7月から始めることが出来た。AACA地方会員の切なる願いであった。

先の仙台での“景観シンポジウム”の開催に当たり、会員数の増強により催事の成

功を期し、それは成就したもののその後の空白が問題となった。会報を読むだけ、東京中心の催事には仲々出席できない、会員の顔も見たことない、ましてや会長役員の方々にもお会いする機会もない。会に出なければ益々遠のいて行く。どうすればいいのか!?!、入会推薦者は彼等の最後の言葉を聞くまでもなく狼狽する。

せめて地方在住会員だけの集りでも、近くに居ながら顔も合わせたことがない。ここに本部からそれなりの人が講師として、或は展示会など企画できれば。まず実行可、不可の決断を担当委員会、理事会に仰ぐ。永い時間はかかったが、財政援助なしでなら、の心持ち良い?返事に早速立ち上げにかかった、何と三年を要したのである。この間事業委員会、理事、事務局の皆様の多大な支援とご理解があった事感謝致します。

もはや仙台在住会員のみで企画運営する他はない。本部からのご配慮でTOTO

ショールーム上の会議室が無償貸与され、会員12名での最初の準備会となった。

建築、美術、工芸の各分野の人々の人的交流、相互理解、そして仙台在住作家の潜在的能力の発見と市民への啓蒙、それがAACASの認知と会員としての存在意義へとつながれば、と目的を確認、年間4回、経費は参加者の浄財で、名称はサロン・ド・トーク仙台、AACASと決める。第一回は7月18日に行われた。芹沢銈介工芸美術館(東北福祉大内)で、館長がご子息芹沢長介氏、考古学者だけに父上の染織の分野にも造詣深い、スピーカーにお願いし、コメンテーターは法学者、同大学学部長渡辺信英氏2人での対談である。参加者60名、大同理事、三木事業委員のご出席と会長のメッセージが会場に華をそえる。2時間半のトーク&パーティ、作品を前にしてのサロン・ド・トークはその勢いで、2001年3月3日で4回を迎える。



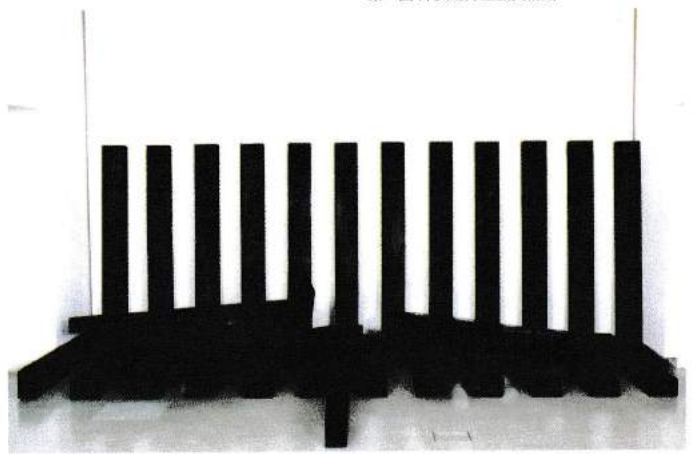
ぶどうの木 榎戸悦



第三回 サロンド・トーク 榎戸悦+吉田イサム
第三回 白百合学園聖堂



華の字のれん 芹沢銈介
第一回 芹沢銈介工芸美術館

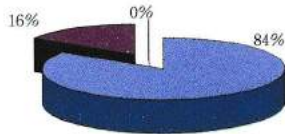


枕木 高山昇 第二回 リアスアーキ美術館

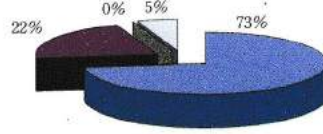


アイティ アンケート チョーサ ホウコク

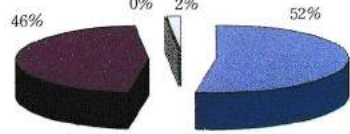
1. コンピューターを事務所又は自宅で使っていますか (はい・いいえ)



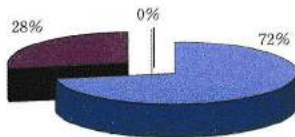
2. 電子メールのアドレスをおもちですか。職場で (はい・いいえ)



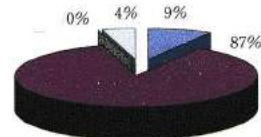
3. 電子メールのアドレスをおもちですか。個人で (はい・いいえ)



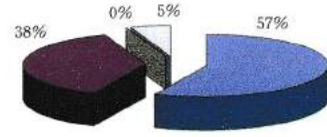
4. インターネットのホームページを利用していますか (はい・いいえ)



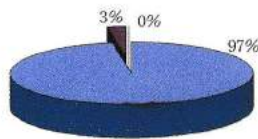
5. 個人のホームページをお持ちですか (はい・いいえ)



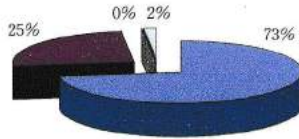
6. 事務所又は勤め先でホームページをお持ちですか (はい・いいえ)



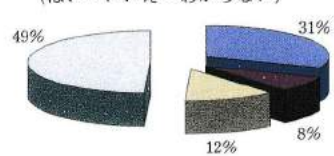
7. ファックスをお持ちですか (はい・いいえ)



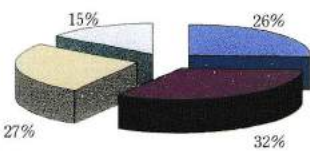
8. 携帯電話をお持ちですか (はい・いいえ)



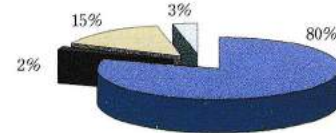
9. 電子メールアドレスをお持ちになる予定がありますか (はい・いいえ・わからない)



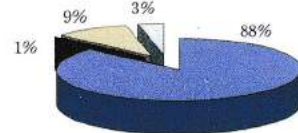
10. 個人のホームページを開設する予定がありますか (はい・いいえ・わからない)



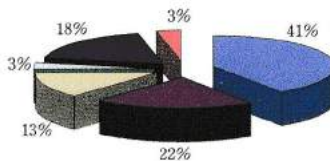
11. aaca事務局のOA化について賛成ですか (はい・いいえ・わからない)



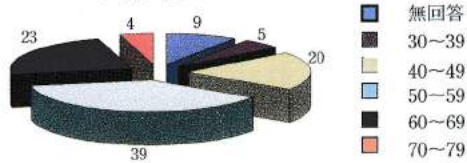
12. aacaがホームページを持つ事に賛成ですか (はい・いいえ・わからない)



回答分野比



回答世代比



IT アンケート調査報告

調査研究委員会では事務局のOA化という問題を検討推進するに当たり、会員の方々の現状を把握するところから始めたいと考え、昨年末にアンケート調査を実施しました。お願ひした期限の1月末までに事務局に返送されましたアンケート用紙は116枚にのぼり、会員数が約700とすると、16%の方々からご返事をいただいた事になります。調査に協力いただいた方々の年齢、分野の割合はグラフのとおりです。8割以上の方々事務所又は個人でコンピュータを持っています。メールについては7割が職場でのアドレスを持っており、5割以上の方々個人のアドレスを持っているとの回答でした。これはメールやファックスの利用によって事務局からの通信を合理化できるかという課題に対して明るい見通しといえます。ファックスについては97%の

方がお持ちになっています。ホームページ(HP)の利用については7割以上の方が利用していると答えています。HPを開設しているかについては個人9%、会社57%と未だ個人でのHPの開設は一般的になっていないという結果が出ています。開設予定については26%が開設を検討しており、個人のHPもこれから増えて行くものと思われます。

携帯電話については若い人々の間ではインターネットやメールの端末として利用されている事もあり将来的な可能性も考え設問しました。73%の方がお持ちになっています。メールアドレスの取得予定について、「既に持っている人には無意味である」というご指摘をうけました。その結果約半数の人が無回答になっています。31%がアドレスを取得予定と回答しており、設問2、3の持っていない

22%(事務所)46%(個人)と答えた方々も持つ方向で検討していると考えられます。事務局のOA化には80%の方が賛成2%が反対という結果です。協会のHPの開設には賛成87%反対0%でほとんどの人が協会の広範な情報発信を望んでいるという結果でした。全体としては会員の多くの方々コンピュータを情報手段として利用しており、現在利用していない方々も利用を検討しているという結果がこの調査から読み取れます。ご自身では利用されないし、そのつもりもない方々でも、「協会の将来を考えるとITの利用という方向性はやむを得ない」という主旨のご意見を数件いただきました。また、IT化によって置きかわされるものが多い事を警告するご意見も2件いただきました。



ISHII HIROMI



SAKAGAMI NAOYA



TSUYUGUCHI NORIKO

私たちの技術は

あなたへのラブレターなんだ。

技術は何のために生まれてくるのだろう。

生まれてきた技術はどこに行くのだろう。

私たちの技術のよろこびは、

ビルやオフィスや橋を利用する人々の大きな満足から生まれます。

みんなのしあわせが、技術のしあわせです。

それでは、いつか、またお会いできる日を楽しみにしています。



地図に残る仕事。